

多収イネ、疎植と単肥でコスト低減

米の消費を更に拡大するため、米粉や飼料用米への利用を推進しています。しかし、競合する小麦粉や他の飼料に比べ割高なため、更なるコスト削減が必要です。そこで、収穫量の多いイネ品種を用いて、米粉や飼料用米を低コストで生産する技術を開発しました。

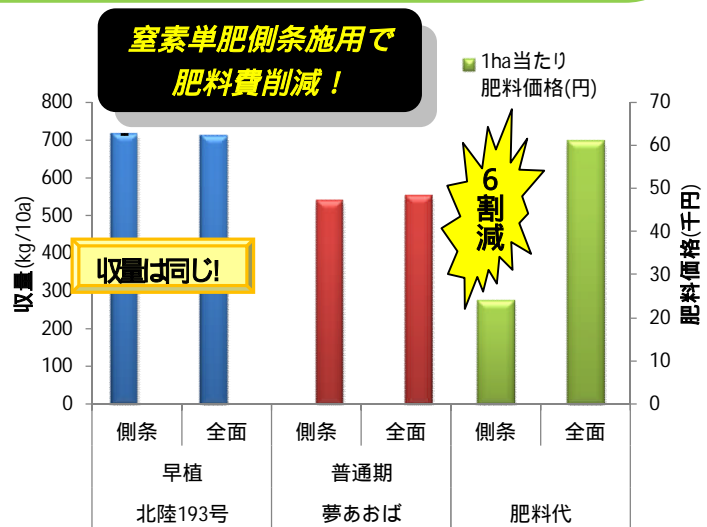
苗を植える間隔は、慣行栽培の約2倍で、肥料は窒素成分のみを使います。そして、肥料を苗の横に施す「側条施肥技術」を用いて、肥料の使用量を減らすことで、収量は慣行栽培と同等で生産コストを約1/2にすることができました。また、「北陸193号」は、穂の水分が低下するまで、刈り取らずに田んぼで乾燥させると、乾燥機の燃料費を約40%減らすことができました。



【疎植対応の田植機での移植】

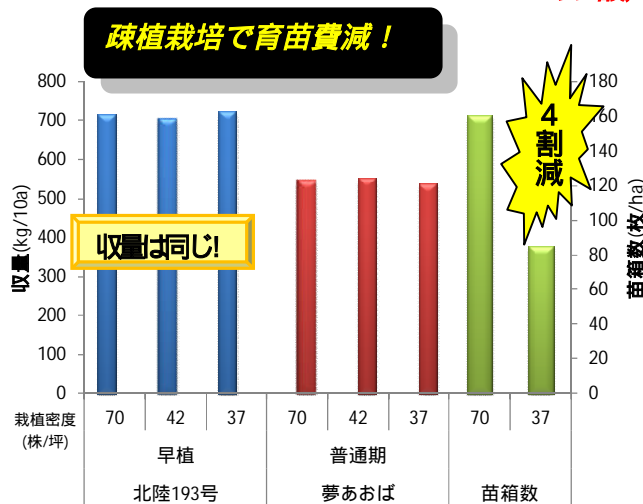
品種)

早植え(5月中旬植え) : 「北陸193号」
普通植え(6月中旬植え) : 「夢あおば」



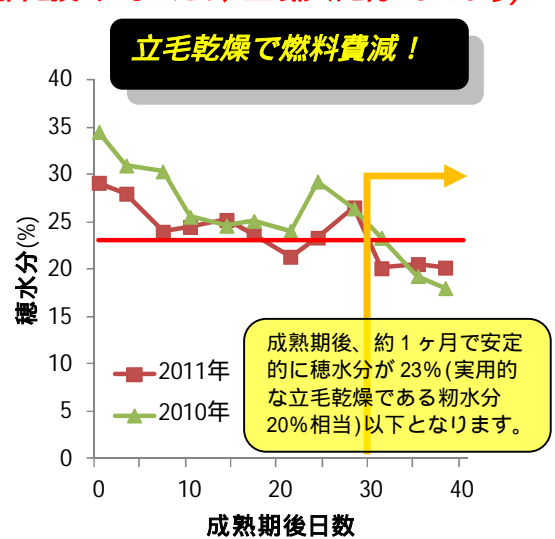
【施肥法による収量とコスト】

(注意!)
リン酸 加里肥料を投入しないため、土壌断を行しましょう



【栽培密度による収量と苗箱数】

(注意!)
品種、作期によっては減収することもあります



【早植「北陸193号」の穂水分の推移】

(脱粒に注意!)